

充実した活動内容を目指して



社会福祉法人 愛護会

障がい者支援施設 希望の園

生活介護部長 千葉 陽志

1.研究主題

充実した活動内容を目指して

2.主題設定の理由

希望の園の生活介護事業は日中活動において入浴、排せつ及び、食事等の介護、家事並びに生活に関する相談及び助言、その他の必要な日常生活上の支援、創作活動、生産活動の機会の提供、その他の身体機能又は生活能力の向上の為に、必要な援助を行なうことを目的としている。具体的には

- ①個別支援計画に基づき日中活動を行なう。
- ②対象者に対しての個々のアプローチにより本人が楽しく過ごせるように支援する。
- ③対象者にあわせた機能訓練をすることで体力保持と機能維持に努める。ということである。

新体系移行前から希望の園では活動班の数が『養鶏班』『軽作業班』『療法部』と3つの班に別れて作業や活動を行なってきたが移行後からも大きくは変わらずに名前を変更させ3つの活動班に分けて活動を行なっている。

『養鶏班』⇒『ふれあい』



『軽作業班』⇒『オアシス』



『療法部』⇒『なごみ』



現在、希望の園では平均年齢が 54 歳、最高年齢が 74 歳から 20 歳までと年齢の幅はあるものの、全体的に年齢による体力の衰えが見られ長時間での活動が難しくなっており、またその内容についても集団的、画一的なものでは困難になってきている。

活動の声掛けに対して参加を嫌がる反応を見せる利用者も多く、意欲も薄い方が殆どである。

そこで、どんな活動を提供すれば心から楽しく安定した気持ちで活動に参加できるのか、利用者からの要望を取り入れながら利用者が満足できる活動内容を模索し研究していきたいと考え本主題を設定した。

3.研究のねらい

- ・利用者はどのような活動を望んでいるのか、どのような内容が楽しいと感じるのか利用者の要望を把握し、現在、取り組んでいる内容に工夫を加えながら良い活動にしていく。
- ・他の事業所での活動内容を参考にしながら、日中活動の選択の幅を広げられるよう新規に内容の開発をはかっていく。

4.仮説

利用者が活動に参加することを嫌がったり、活動に意欲的でない現状を改善させるため、利用者の要望を把握しながら、様々な日中活動(内容)を取り入れ、利用者が楽しく活動できるよう工夫しながら今よりも充実した内容にしていけば、普段の生活の場でも安定した気持ちで落ち着きながら利用者全員が楽しく生活ができるのではないか。

5.研究内容と方法

- ①利用者の希望調査の実施
- ②他事業所・法人内他施設の取り組みから学ぶ
- ③日中活動の工夫と実践

6.研究の実践

① 利用者の希望調査の実施

最初に「好きな活動内容は何か」について利用者から聞き取り調査を行った。

結果、殆どの利用者の方は通常の活動内容とは違った外出、ドライブなど場を変えての活動を望んでいた。その他には、これまで取り組んできたパーラービーズをしたい、鶏の作業をしたい等であった。

調査の結果、これまで取り組んできた内容の選択が殆んどであり、新たな活動内容の提案が必要であると感じた。

② 他事業所・法人内他施設の取り組みから学ぶ

《他事業所の取り組み》

他事業所では、どのような活動内容になっているか知り、希望の園で実際に取り組める内容であれば取り入れ、より充実した活動にしたいと考えた。

他事業所では、ゲートボール場を作り体力維持に努めている所や、パチンコの機械を準備し実際に利用者が行なっている所があった。

大型の設備投資やハード面での改良は困難であるが、他施設で取り組んでいる音楽療法や機能訓練の内容を調べ、楽しく体を動かし、体力保持のため健康維持・増進につながるような活動内を取り入れていく。

《法人内他施設での取り組み》

静山園での取り組みを見学したところ、アキュラシーのゴールへ向かい新聞紙を丸めた物を投げるといった内容に取り組んでいた。

希望の園の利用者が取り組める内容であるか、検討し取り入れていきたいと考えた。

③ 日中活動の実践

○ ドライブ外出について

ドライブ外出は年間計画をたて、会議等でその内容を検討し実施している。

25年度にはグループ別毎に3回のドライブ外出を実施する事ができた。

利用者の体調や情緒的な面で行く場所を制限される利用者もいたが、月例朝会でドライブがあることを報告すると楽しみにしている利用者もいた。

《一回目》平成25年5月実施

場所：種山方面（種山高原） 奥州市内（江刺区 夢の架け橋）

《二回目》平成25年7月実施

場所：北上方面（展勝地） 奥州市内（水沢区 胆沢城跡地）

《三回目》平成 25 年 9 月実施

場所：一関方面（厳美溪） 奥州市内（産直来夢・障がい者芸術祭）

三回目のドライブでは地域行事の障がい者芸術祭に合わせ数人の利用者が参加し楽しく過ごす事ができている。



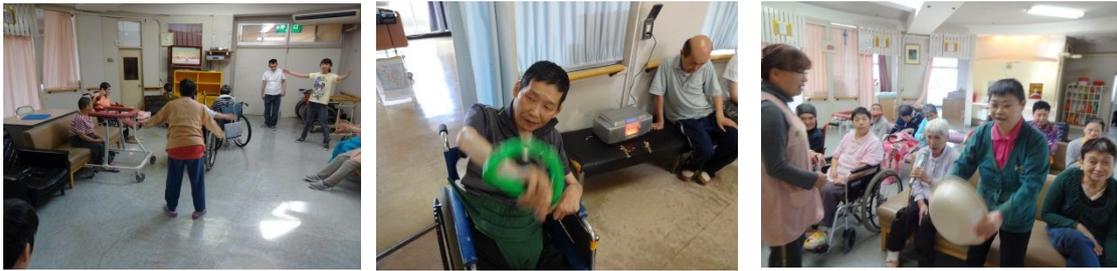
全体での外出、ドライブには職員人数の確保や、車の手配などで制限があるため、ホームルーム活動の日を活用して、ホームルームで近くのコンビニまでおやつを買いに出かけるような機会や、散歩をしながら美山病院の売店に行くなど、気軽に外出することをホームルーム担当に提案していった。

○日中活動の工夫・改良

体力保持の為、日中活動の合間や余暇時間を利用してラジオ体操を行い、美山病院方面や愛護苑の周り、農場方面への散策を実施している。その他に室内での歩行訓練やリトミック（音楽をかけ利用者へ楽器を持たせ身体を動かす）を行っている。また車椅子の利用者の方には立位の訓練にも取り組んでもらい体力の保持に努めている。体力の保持については取り組める時間があれば随時実施している。

なごみの活動内容は、ほとんど体力の保持を目的とするような機能訓練となっている。危険がないように職員は細心の注意を払い支援にあたっている。体操について、自ら身体を動かす利用者は少なく、側にいながら一対一での対応となっている。体操に興味を示さない利用者へは、歩行訓練やマッサージ等を行い体力の保持に努めている。

散策は殆どの利用者が好み、参加を嫌がる利用者は少ない。散策中は利用者の歩幅に合わせコミュニケーションを図りながらの取り組みで、情緒の安定にも繋がっている。リトミックでは音の出る楽器を渡し利用者に振ってもらい身体を動かす事で体力の保持をねらっているが、楽器を直ぐに離したりする利用者も多く、長時間での取り組みは難しい。また大きな音を嫌がる利用者もおり全員での取り組みは難しい。取り組んでいる利用者は楽しそうに楽器を鳴らし笑顔で取り組む事ができている。



○職員の工夫した余暇活動

静山園での取り組みから、職員で新しいゲームを考えた。

ダンボールを切り、穴を開けて横にそれないようにボールの道筋をある程度作り、ボールを投げて入れるゴルフのようなものを作成した。

実際に取り組む利用者の表情を見ると嬉しそうにボールを投げて穴に入るたびに笑顔になり喜んでいました。全員が取り組めなかったが、楽しみながら腕の力や集中力が養われると思われた。

さらに、考えたゲームと似たような市販のビンゴバスケットボールであれば、簡単に誰でも取り組めると思い活用した。

また、風船バレーを独自のルールを作り取り組んでいる。紙風船を使用しシートの上に10数個乗せて、数人でシートを振りながら早く風船を床に落とした方が勝ちとする内容で取り組んでいる。デモンストレーションで職員が見せた所から、皆笑顔を見せておりゲームが始まってからも元気よく腕を上下に振り楽しく参加する事ができた。腕を動かす事により体力保持にも繋がった。



○新しい活動への取り組み

イ.おやつ作りへの挑戦

誰もが楽しみにしている「食べる」ことを活動の中に取り入れおやつ作りを実施した。

《一回目》平成25年8月実施

夏場のおやつ作りとして、かき氷作りをした。

全利用者が参加する事ができ食べる量等に気を配りながら実施した。

職員の各家庭にある、かき氷の器械を持参し男女各ホールでかき氷作りを

行った。

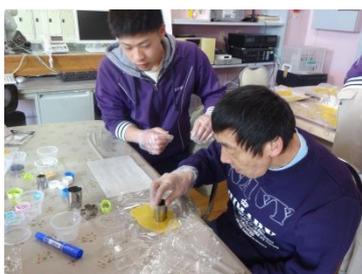
男子に3台、女子に3台計6台の器械でかき氷作りをした。実際に利用者が器械に触りハンドルを回したり実際に氷に触れ器械に入れたりして、楽しそうな表情で取り組んでおり、機能訓練にも役立った。かき氷を食べる利用者の姿はさらに楽しそうであった。全員参加する事ができた。

《二回目》平成26年2月実施

クッキー作りを実施する。クッキーたねは数名の利用者と作り、形や模様など、型を使用しながらクッキー作りに取り組んだ。午前の活動で全利用者が取り組み、焼き上げたクッキーを食堂で食べた。

クッキーの形は一人一人の個性がでていて、形作りを終えてもその場から離れることなくクッキーを眺めている利用者もいた。作っている際の表情を見ても本当に楽しそうに取り組んでいた。

クッキーを食べる時の表情はさらに嬉しそうで、「おいしい」と歓声を上げていた。



ロ. ボランティアの活用

外部からボランティアでサークル活動を行なっている方々に来園していただき演奏会等を開き、芸術、文化に触れる機会をつくっていくことを新たに取り入れ実施した。

《大道芸披露》平成25年8月実施

職員が胆江日日新聞を見て「この人を見てみたい」と言ったのがキッカケで連絡を取り来園してもらった。

※この方は東水沢保育園の卒園児で、大道芸を始めたのは今年からだそうである。

1人でうさぎの形をしたギターを持ち、後ろにはドラムセットを抱え歩きながらの演奏。

歩きながらの演奏となる為、ホールの真ん中にゴザを敷き、またホールの周りにソファを準備して、演奏してもらった。

演奏する曲の内容は皆が知っているような曲であり、利用者の皆も一緒になって歌を歌ったりバルーンで動物を作ったりと楽しい時間を過ごす事ができ

た。

演奏中に利用者は自ら大道芸人に手を差し出し握手を求める事も見られた。残念であったのは大きな音を嫌がる利用者がおり、別の部屋で他の活動を行った。



これをきっかけに、利用者さんが喜びそうなボランティアさんを職員が情報収集し、できるだけ来園していただける機会を設定したいと考えた。



7.成果と課題

○ドライブについて

成果

ドライブ外出では、今年度3回の取り組みができた。毎回、季節などに合わせコースを変えてのドライブを実施したので、利用者一人一人の反応も良く充分楽しめた活動であったと思われる。

ホームルーム毎のドライブ、散策をしての買い物は増えており、ホームルーム活動日にはそれぞれのホームルームでお楽しみの企画を立てるようになってきた。

課題

全体のドライブは回数が増えたものの、目的の場所へ到着してゆっくりその場でくつろぐこともできず直ぐに帰園している。

公園で体を動かしたり、イベントをしている場に行って楽しむような余裕のある計画を、利用者に合わせて移動時間、時間帯、場所を考慮して立てていく必要性を感じた。

○活動内容の改良

成果

利用者が体を動かせるようなゲームを希望の園の利用者に合わせたルールを考えながら、改良して実施した。新しいゲームについては、すぐに楽しそうに取り組んでいた。

課題

活動のマンネリ化を防ぐためにも、活動内容の選択肢を広げ、楽しんで体を動かせるような工夫をしていくことが必要である。

また、そのために職員で情報を収集し、アイデアを出し合っていくような話し合いの場をつくっていくことも必要である。

○新しい活動への取り組み

イ.おやつ作り

成果

自分で作って食べることの楽しさは、一番利用者の表情に表れていた。また、かき氷づくりなど事前に思った以上体力を使い、機能訓練に役立った。

課題

糖尿の利用者が数名いた為、お替りや量の規制をする事となり皆と同じように楽しめない利用者もいた。おやつの内容について検討が必要であると感じた。またお腹を壊しやすい利用者も多く冷たいおやつを提供する時期についても再検討が必要であると感じた。

ロ.ボランティアの活用

成果

普段あまり反応を見せない利用者も笑顔で過ごす事ができ最後まで参加する事ができた。

また、外部からボランティアを招いての演奏会等になると、前日から楽しみにしている利用者も多く、生活の励みに繋がったようであった。

25.8/24…うさぎのギターの大道芸人

25.9/21…あすなる会との交流会に来ていただいた『二胡演奏会』

25.11/16…うさぎのギターの大道芸人

25.12/24…クリスマス会にマジックショー

26.2/26…黒田助獅子舞

26.3/30…42歳厄年連『阿波踊り』

課題

聴覚障がい、視覚障がい、集団行動が苦手な利用者、大きな音を怖がる利用者があり、個々に合わせてのボランティアの企画設定が困難であった。

そのような利用者にも楽しんで参加してもらおうよう、今後は幅広いボランティアの活用が必要である。

8.研究のまとめ

取り組んできた内容を文章にして思い返すと、様々な反省点や色々な事が見えてきており、結果的には自分自身が学ぶ良い機会であった。

現在、希望の園では高齢者や介護度が高い利用者さんが多く、一人が体調を崩すと直ぐに感染し、蔓延してしまう事や、一度体調を崩すと長期間休む事になってしまうのが現状であり、今後もますます介護度が高くなる利用者は多くなると考えられる。

そこで、毎日規則的な生活を送ることを基本とし、時々、外出、行事、ゲーム、調理体験などを生活の中にとり入れることで生活に変化をつけ、活動への意欲や精神的な潤いとなるように配慮していきたい。

今後も利用者一人一人の要望を聞きながら、利用者がいきいきとした暮らしができるよう利用者に合わせた活動を提供していきたいと考えている。何よりも利用者本位のサービスの提供とし、日中活動の充実を図るとともに、施設内外の環境整備をしていき、これからも年齢とともにますます介護度の高くなる利用者に寄り添える福祉サービスの資質の向上を目指していきたい。